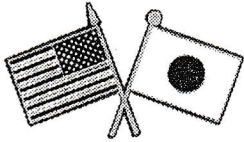


28 JUL 2004



第23号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：<http://www.bouei.com/groups/jaaga/>

16年度(第9回)年次総会・懇親会

役員交代;副会長に後藤氏、副理事長に山口氏など 織田空幕防衛部長の講演に満座の大拍手



Maj. Gen. Orita

平成16年度(第9回)JAAGA年次総会が、4月27日グランドヒル市谷において講演会並びに懇親会と共に開催された。

総会は、出席者63名及び委任状提出者173名により成立、冒頭、村木会長が挨拶し、「1997年創立されたJAAGAが、発足時の困難を乗り越え今や円熟期を迎えた諸活動を実施出来るのは、歴代の会長や役員をはじめ諸先輩そして会員諸氏のお陰であり、会長就任1年間を振り返りつつこれらの努力の積み重ねに先ず以て敬意と感謝の念を表すること。そして『9.11同時多発テロ』から『アフガン』『イラク』と激動する国際情勢の展開の中で、日米

同盟の絆を背景に今や陸海空各自衛隊がイラク、クェート、インド洋等々でそれぞれ大きな活動を展開している状況は、かつての湾岸戦争で130億ドルもの経済援助をしていながら『Too little, too late!』との悪評を買ったことを想起すれば隔世の感があり、こうした中でJAAGAとしても会員のボランティア活動を資源として航空自衛隊と米空軍の橋渡しの役割を一層効果的に果たしていきたい。」等の所感を示し、終わりに会員による継続的な協力と支援を要請して挨拶を締めくくった。

引き続き第1号から第5号までの議案審議に進み、平成15年度事業報告、同決算報告及び同会計監査



The Audience at the Lecture

報告、並びに平成16年度事業計画案、同予算案及び役員を選任に関するそれぞれの議案について担当の常務理事から説明を行い、何れも提案どおり承認された。

役員を選任については、退任する高橋伸治副会長の後任に後藤龍一氏が、田中伸昌監事及び横山俊夫監事の後任に桑原武彦氏及び中司崇氏が、また後藤副理事長の異動に伴いその後任に山口利勝氏が就任した。その他、大串康夫氏及び木村忠信氏が理事に、榎利美氏以下5名の常務理事がそれぞれ就任し、退任役員に対する盛大な拍手を以って総会は滞りなく終了した。

総会に続いての講演会は、空幕防衛部長 織田邦男空将補が「日米共同の現状と課題」と題して、アフガン以降における自衛隊の海外派遣等に象徴される蜜月的な日米関係の経緯を掘り起こしつつ、自由と民主主義の価値観を共有出来ずジャパンナッシングとまで揶揄された問題点の本質を、スタンフォード大留学等の経験則からメスを入れた迫力充分の論述で明らかにすると共に、冷戦終結に伴う運命共同体から利益共同体への変貌説を背景に示唆に満ちた



Party scene

日米同盟再構築論を展開した。また9.11以降まさに激動の内外情勢の渦中において総隊防衛部長からそのまま引き継ぎの空幕防衛部長就任という要職歴ならではの視点から、防衛力整備や日米共同訓練の現状と問題点にも言及し、併せて米空軍高官等との人脈を継続するJAAGAの活動に期待感の表明があった。こうした熱気溢れる「織田節」に会場満杯130余名の聴衆から質問が相次ぎ、これを打ち切った満座大拍手の中、村木会長より謝辞と記念品が贈呈された。

会場を移しての懇親会では、村木会長の主催者挨拶のほか山本安正JANAF A（日米ネービー友好協会）副会長や横澤彰夫つばさ会会長代理のスピーチがあり、元在日米海軍司令官や米国企業関係者等の参加で若干の国際色も加わって、講演会講師の織田防衛部長等を中心に会場随所に歓談の輪が広がり、大盛会は時間を過ぎてようやく宴を閉じ、ここに第9回総会関連行事の全てが終了した。

(吉田常務理事)



Party scene

記念講演概要

空幕防衛部長「日米共同の現状と課題」

ご承知のとおり、日米関係はかつてないほどの良好な関係にあり、蜜月時代を迎えている。両国首脳の間緊密な関係に加え、軍事的分野での極めて良好な関係を当事者として痛感しているところである。ワスコー中将を始め親日家の米軍人の方々からの御協力、J A A G A 会員の皆様が長年に渡り築き上げられた米軍関係者との親密な関係の恩恵に与っている者を代表し、まずは皆様に御礼申し上げたい。

しかしながら、これまで良かったと言って、このような良好な状況が永遠に続くと考えるべきではなく、「同盟は紙ではなく、連帯感である。」とキッシンジャー氏が指摘したとおり、同盟関係の維持には努力を怠ってはならないと考えている。

そこで、日米共同の現状と課題というテーマで、同盟の現状、日米同盟の変遷と教訓、同盟が抱える本質的問題・課題等を現場の視点から述べさせて頂きたい。

1 同盟の状況

諸先輩がご在籍されていた時代の「同盟」と現在の「同盟」の性質は異なっており、これほど変わったのかとの印象を持つとも思われる。共通の敵であったソ連が消滅した89年の冷戦終結を機に、「同盟の市場化」と言われる現象が起き始めた。すなわち、各国は同盟を近視眼的な「得か、損か。」という基準で捉え、昨今用いられているコアリションは、共に戦い、協力するものの、利害に基づく関係を表すもので、同盟の形態は「運命共同体」から「利益共同体」へと形を変えつつある。

今回のイラク派遣でも、米軍のスタンスは他国との能力格差に起因するところもあるが、「できる範囲で貢献してくれれば十分」と言うもので、結果、戦域輸送力での貢献、すなわちC-130の派遣となっ



President & Guest Speaker

た。主体として活動する米軍にしてみれば、自己の機能の補完・強化が重要で、我が国に対しては「F-15を派遣してくれ。」などと端から言わない。このような傾向は今後も続き、気付いた時には何もできず、言われたままに動くしかない「パシリ自衛隊」に成り下がらないように注意しなければならないと考えている。

このような状況において、我が国の安全保障にとって不可欠であり、50年以上に渡って構築してきた日米同盟を、本来の意味での同盟として如何に維持し、機能させるかという課題に我々は直面している。

2 日米同盟の変遷と教訓

(1) 旧ガイドラインの意義と成果

旧ガイドラインが合意された年は、今から52年前に日米安全保障条約が発効した年から数えて26年後の1978年であるので、マラソンで例えれば折り返し地点であった。

旧ガイドラインの意義は、第1に日米共同作戦計画の研究に着手したこと、第2に日米共同訓練が開始されたこと、第3に共同防衛構想を明らかにしたこと、の3点であった。ただし、立

法、予算上の措置を講じないことを前提していた旧ガイドラインでは、共同作戦計画は研究の域を超えることなく、明らかに実効性に欠けるものであった。また、盾と矛と関係で切り分けた共同防衛構想への米側の反発は強く、シーレーン防衛と政治的に取引する形で米側が折れたと聞いている。そのため、米側のフラストレーションはかなり高く、様々なエピソードも残されている。しかしながら、26年後の現在、ACSA締結、ガイドライン改正、周辺事態安全確保法及び武力事態等対処法の制定、本国会での成立が確実な関連7法案及び条約等、歩みは遅いものの、ここ10年の間に着実にステップ・アップしており、当時の成果は結実していると確信している。

また、日米共同訓練が開始された当時、駆け出しのパイロットだった私の記憶には、ベトナムから戻ったばかりで硝煙のにおいが感じられたパイロット達の鮮烈な印象、共に戦い、精強さを追求しようとする気概、そして彼らとの一体感が残っている。蛇足になるが、現在の共同訓練を通じて感じるのは、今の米空軍若手士官達が、ワスコー司令官の様に冷戦を戦ったメンバーとは異なり、極めてクールでビジネスライクとすることである。

(2) 湾岸戦争対応と日米関係

91年の湾岸戦争後、日米同盟は事実上空洞化していく。私は、この頃スタンフォード大学の客員研究員として米国に滞在していたが、日本に対する米国の冷めた反応を肌で感じた。130億ドルの資金援助を米国人のほとんどが知らず、親日派の人々にも、最終的に表明した90億ドルのみが認知されていた。当時、我が国は小切手外交以外に何もし得ず、自由と民主主義という価値観を米国との間で共有できなかった。戦争終了後の掃海艇派遣も”Too Little, too Late”との批判を浴び、93年のカンボジアPKO参加の文民警察官が死亡した際の自治大臣による「守備範囲を替えて、安全なところにしてくれ。」

とのコメントに対しては「カンボジアでは170人が既に死亡しており、日本は偽善者だ。」との辛辣な記事が米国各紙の一面を飾り、日本人として恥ずかしく、悔しい思いもした。

「失われた90年代」と言われるとおり、経済と安全保障との両面で日米同盟は地に墮ちつつあった。92年のクリントン政権発足時、クラスメートが同政権の閣僚にアジアに精通した者はないことを懸念していたとおり、宮沢首相が首脳会談後の会見で「日米関係は50年前に逆戻った。」と溜息混じりに述べ、細川政権時には「構造協議決裂」、「半導体シェア20%問題」等、冷ややかな関係が続いた。

当時の米国の関心は、「冷戦後の世界をどうするか。」であり、安全保障に関しては、「平和の配当をどう取り戻すか。」「ダウンサイジングと基地の縮小・閉鎖」、そして「核開発者と情報員の処遇」が喫緊の課題であった。在籍していたスタンフォード大学でも、私が日本人であることを知りながら、TOYOTAとNISSANに対抗するための3万人の核技術者の自動車産業への転換や、CIA情報員の貿易戦争での活用等を議論し、現大統領補佐官で、当時は同大の教員であったライス女史も、辛辣な対日批判をしていたのが記憶に新しい。96年には、モンデール大使の「尖閣諸島は日本の施政下ではなく。日米安全保障は発動されない。」発言もこの文脈でとらえるべきであろう。その後、「ジャパン・バッシング」は、「パッシング」、「ナッシング」と進み、クリントン政権前半における日本の評価は散々たるものだった。

ただし、全てが悪い方向に進んだ訳ではなく、93年のBottom Up Reviewで欧州の前方展開戦力の見直された一方で、冷戦構造の残滓であるアジア太平洋地域には10万人の前方展開戦力は維持されることになり、欧州から北東アジアへと軸足が移り始めた。

また、有識者のなかにも、アジア太平洋地域の安定には、NATOと同様の集団安全保障体

制が構築されるまでの間、日米同盟関係が極めて重要な位置づけにあることが認識され始めていた。さらに予期せぬことに、95年の樋口レポートは米側に「日本は米国から離れていくのでは。」との疑念を抱かせることになり、ジョセフ・ナイらの有識者が中心となり、96年の日米安保共同宣言、97年には新たな「日米防衛協力のための指針」、現ガイドラインへと至ることになった。

現ガイドラインの意義としては、第1に、軍事をコアとする作戦面における同盟の重要性を再確認したこと、第2に蓋然性の高い周辺事態（テポドン、核疑惑、不審船等）を対象として実効性を追求し、所要の法律を整備したこと、第3に平素からの政策協議、情報共有、国際平和活動や国際緊急援助活動と協力する分野を拡大したこと、第4に実行性を確保するための種々のメカニズムを構築したことの4点が挙げられる。さらに特筆すべき点として、「立法、財政、行政上の措置の義務を負わない。」とした旧ガイドラインの記述に替え、「両国政府は、各々の判断に従い、具体的な政策や措置に適切な形で反映することが期待される。」というまさに官僚の名文が盛り込まれたことがあり、安全保障関連の法整備が継続的に推進されている本日の起点となっていることである。

(3) 「9. 11」と蜜月時代

「9. 11」は好転した日米同盟関係をさらに良好な関係に進展させるきっかけとなった。しかしながら、ソマリアでの例を見るとおり米国は世論と議会の国であり、90年代の状況を省みると、同盟は「ガラス細工」の様に脆いものであることを忘れてはならないと思っている。

3 同盟が抱える本質的問題・課題

(1) 共通認識形成の困難さ

同盟を形成し、強化するための前提は、脅威認識を共有することだが、旧ソ連の様な脅威は分かり易いが、現在直面しているテロは漠然と

してわかりにくく、対処のスペクトラムがあまりにも広いために、共通の脅威認識を形成することが困難となっている。

(2) 戦略文化相違の表面化

欧州では米国との間で戦略文化の相違が表面化しつつある。当面の脅威が消失した欧州諸国にとって、権力や軍事力への興味は失せ、もともと法や制度を重んじる土壌があり、軍事力以外に有用性を見出さない米国との間で考え方のひらきが大きくなりつつある。

(3) 二国間と多国間

テロ、非対称戦への対処では、脅威そのものが目に見えにくく、明確な対応が困難となる。そのため、どうしても多国間での対応とならざるを得ず、我が国の場合、必ず集団的自衛権の問題に直面してしまう。

(4) 利益に基づく同盟運営

同盟とも連合とも言えない同盟の運営は、必然的に場当たりの、アドホックとなり、同盟を裏付ける条約があっても空文化する。そのため、血を流し、共に自由と民主主義を守るという共通意識は形成しにくい。

(5) 能力格差

莫大な国防費、特に研究開発費を投入している米国に、他国は軍事技術的な面で追従できず、コソボ紛争ではNATOと米軍との能力格差が露呈された。NATO各国は、「この技術的遅れは、欧州NATO軍は米国と共に作戦することが不可能になるだろう。あるいは、インオペ能力を持たないC3Iを保有するNATOは、将来連合の航空作戦から撤退せざるを得ないだろう。」との米空軍参謀総長による議会報告を受け、DCIと名付けた改善策に取り組んだが、未だ思う様な進展は見せていない。空自も例外でなく、限られた予算の中で、主体性を保持しつつ、同盟を維持するための装備品の整備を追求しなければならず、あり方検討等でも議論してもらいたいである。

(6) 同盟と内政

我が国においても、米国による一極構造的支配の拡大は、国民にある種の嫌悪感、憎悪を抱かせる可能性がある。同盟関係が国民の好き嫌いで引きずられることはさげなければならず、現実的な対応を求めていく必要がある。

4 米軍の共同演習の傾向

(1) 単一軍種から統合へ、二国間演習から多国間演習へ

米軍の大規模な演習は原則的に単一軍種ではなく、統合が基本となる。米空軍との共同演習は同盟に基づき対処の根底をなすことから、空自としては多くの機会を得たいところであるが、米軍では同一軍種での二国間演習には予算が下りにくい様で、機会は減少しつつある。米軍が統合、かつ多国間の演習に拘る理由には、紛争等の対処において、単独よりも連合の方が、国際社会の支持、正統性を得られやすい上、負担やリスクを分散できる利点があるからであり、先述のとおり能力格差から相手国とレベルに合わせざるを得ないため、軍事的な意味で得るものは少ないが、展開のためのアクセス権の獲得等の政治的な意味合いが強いことが98年のGAOから報告されている。

(2) 戦闘からMOOTWへ

豪のタンデムトラスト、比のバリカタン、タイのコブラゴールド等、周辺諸国が主催する多国間演習にオブザーバー参加させている。これ

らの演習の内容は、戦闘以外の作戦、いわゆるMOOTWであるため、最近は、相手方から「何故、部隊がこないのか？」と問われる場面が多いと聞いている。また、昨年ブッシュ大統領が提唱した「拡散防止のための多国間の取り組み（PSI）」に同調する国が主催する指揮所演習及び実動演習にも、オブザーバー参加させているが、MOOTWについてはこれまでの実績、航空におけるPSIは現行の対領空侵犯措置と同様の対応であり、実行上は何ら問題ないとするものの、政治的にどうしても集団的自衛権の問題が足枷になってしまう。

5 おわりに

我が国の安全保障は日米同盟の存在なくして考えられない。しかしながら、「永遠の敵も味方もなく、永遠にあるのは国益、それを追求するのが国家の責務である。」とのチャーチルの言葉のとおり、本日本話しした「同盟の市場化」は自然の流れとも感じている。「市場化」への対応は「市場価値」を高める努力しかない。

真の同盟関係を維持していくには、「市場価値」を高めるといった観点から、政治、軍事、経済というあらゆる面で不断の努力が必要であり、この意味でも、JAAGAの皆様が存在とご活動は欠かせないものであり、今後ともご協力を賜りたく、改めてご協力をお願いしたい。

(蜂谷常務理事)



General Assembly

第1号議案

平成15年度事業報告

(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、概ね計画どおり実施できた。

平成15年度末の会員数は、正会員290名、個人賛助会員35名、法人賛助会員49法人及び名誉会員6名の計380名・法人であり、前年度末に比べ、正会員4名及び個人賛助会員13名の増となった。

第2 事業等の実施状況

1 事業の実施状況

(1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

15. 5. 16 三沢における共同訓練に参加する部隊を激励した。

15. 11. 13 グラムにおける共同訓練に参加する部隊を激励した。

(2) 米空軍隊員の激励等

該当する実施事項なし。

(3) 日米共同の行事等に対する支援

該当する実施事項なし。

(4) 空自基地及び米軍基地等の研修

16. 3. 29～30 賛助会員の三沢基地研修を実施した。参加者：22名（理事5名を含む。）

(5) 日米要人等の講演・講師派遣

ア 講演

15. 4. 25 講師：米第18航空団司令 レミントン准将
演題：航空宇宙遠征軍における第18航空団の運用について
聴衆：約120名

イ 米軍への講師派遣

該当する実施事項なし。

(6) SPORTEX' 03

15. 11. 24 多摩ヒルズゴルフ場において実施した。
参加者：会員32名、空自隊員41名、米軍隊員25名 計98名

(7) 在空自基地米空軍将校等支援

15. 11. 25 横田基地において、在日米空軍先任下

士官に対し、日米下士官相互部隊研修の支援金を贈呈した。

(8) 米空軍隊員の史跡研修支援

米空軍の都合により、平成16年5月に延期して実施する予定である。

(9) 日米隊員の表彰

16. 1. 30 三沢基地米空軍年度優秀隊員表彰式の場において、米空軍第35保全中隊ニコルソン上級曹長及び北空司令部盛康空曹長に対し、高橋副会長が優秀隊員表彰を行った。

16. 1. 31 嘉手納基地米空軍年度優秀隊員表彰式の場において、米空軍第909空中給油隊マックイーン軍曹及び那覇救難隊横井誠2曹に対し、伊藤副会長が優秀隊員表彰を行った。

16. 2. 7 横田基地米空軍年度優秀隊員表彰式の場において、米空軍第374輸空団運用群司令エバハート大佐及び同群並びに防指群村田圭史1曹及び中警団岡本重文准尉（当日不在のため、後刻団司令から伝達）に対し、それぞれ村木会長が優秀隊員表彰を行った。

(10) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

15. 7. 7 横田基地における第374航空団司令送別夕食会に村木会長が出席し、離任のスターンズ准将に記念品を贈呈した。

15. 7. 8 同上航空団司令交代式（スターンズ准将からシスラー大佐へ）に伊藤副会長他が出席した。

(11) 日米安保等に関する広報活動

ア 講師派遣

15. 10. 28 越智、蜂谷両理事が、帝京大学生40名余に対し、講演を行った。

イ 大学生等の米軍基地研修支援

15. 10. 29 日本国家戦略研究所のメンバー18名

の横田基地研修を支援した。

15. 12. 18 帝京大志方教授及び学生28名の横田基地研修を支援した。

ウ 米空軍に対する広報支援

適宜、米空軍広報記事を「だより」に掲載した。

15. 9. 9 東京財団での在日米軍副司令官ラーセン准将の講演を支援した。

エ 米空軍又は空自隊員の企業研修幹旋

該当する実施事項なし。

(12) 在日米空軍各基地との連携の強化

主として渉外担当理事を通じ、5空軍、米空軍基地等との意志の疎通を図った。

(13) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

20号(15. 7. 30)、21号(15.11.28)、22号(16. 3.29)の3回発行した。

(14) 総会及び懇親会

15. 4. 25 第8回総会をホテル・グランドヒル市ヶ谷にて開催し、総会に約60名、懇親会に約150名が参加した。

(15) 空自創立50周年記念行事等に対する支援事業の検討

平成16年6月に実施する記念講演会及び懇親会を担当し、計画中である。

(16) その他

15. 4. 22 日米ネービー友好協会(JANAF A)総会に、石川副会長が出席した。
15. 6. 14 嘉手納スペシャルオリンピックを支援した。(助成金は、4/22贈呈)
15. 9. 8~10 米空軍シビックツアー(横田基地主催、地域有識者24名参加、横田、アンダーセン(グアム)、三沢各基地の研修)に越智理事が参加した。
15. 9. 17 三沢基地米空軍記念日行事(AFボール)に小澤支部長が出席した。
15. 9. 25~10. 11 つばさ会/JAAGA訪米団(杉山つばさ会副会長以下6名、内、当会から伊藤副会長以下5名参加)が米空軍各基地等を親善訪問した。
15. 11. 25 ネービー友好協会(JANAF A)懇親

会に、村木会長が出席した。

15. 12. 7 米第5空軍司令官招宴オープンハウスに村木会長以下が出席した。

嘉手納基地司令招宴オープンハウスに石津支部長が、三沢基地司令招宴オープンハウスに小澤支部長がそれぞれ出席した。

15. 12. 19 会員から米軍へのクリスマスプレゼント(干支の酒盃14個)を、渉外担当理事から5空軍副司令官フィンドリー准将へ手交した。

16. 1. 28 福生・横田交流クラブ新年会に、村木会長以下が出席した。

16. 2. 26 横田基地における「メダル・オブ・オンナー」勲章受章者のジャクソン大佐(退役)を囲む晩餐会に、越智理事が出席した。

2 運営管理の実施状況

- (17) 会勢(16年3月31日現在 ()は前年度末)

正会員	290名	(286名)
個人賛助会員	35名	(22名)
法人賛助会員	49法人	(49法人)
名誉会員	6名	(6名)
計	380名・法人	(363名・法人)

- (18) 会員名簿の作成・配布

7月に会員名簿本冊を発刊し、15年11月及び16年3月に修正表を発行した。

- (19) 一般広報

空自業務管理講習や各基地の航空祭、他団体集会等の機会を捉え、会長以下各役員が自主的かつ積極的に実施した。

- (20) 理事会及び常務理事会

ア 理事会: 3回(9/18、12/19、3/29)

イ 常務理事会: 7回(5/29、6/19、7/29、10/27、11/28、1/28、2/23)

- (21) 監査

16. 4. 9 平成15年度収支決算監査及び在空自基地米空軍将校貸与品の監査を実施した。

以上

第2号議案

平成15年度収支決算報告書

(平成15. 4. 1 ~ 16. 3. 31)

(単位：円)

収 入		支 出	
区 分	金 額	予 算 科 目	金 額
前 年 度 繰 越	5,287,956	激 励 慰 問 費	0
年 会 費	4,604,590	事 業 共 同 訓 練 激 励 費	182,040
寄 付 金	0	研 修 助 成 費	54,799
利 息	149	表 彰 関 係 費	121,487
雑 収 入	80,666	友 好 親 善 行 事 費	615,633
		費 総 会 費	257,594
		広 報 費	1,050,065
		小 計 (83.46%)	2,281,618
		運 営 管 理 費 名 簿 関 係 費	141,855
		会 則 関 係 費	0
		入 会 活 動 費	34,759
		支 部 運 営 費	0
		会 議 費	5,649
		事 務 費	805
		通 信 費	20,945
		旅 費	108,000
		雑 費	140,142
		予 備 費	{121,500}
		小 計 (16.54%)	452,155
		計	2,733,773
		翌 年 度 繰 越	7,239,588
合 計	9,973,361	合 計	9,973,361

第3号議案

平成16年度事業計画

(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日)

第1 事業運営方針

「J A A G Aの目指すべき方向について」(12. 9. 19 第20回理事会承認)に基づき、事業を着実に推進する。

航空自衛隊創立50周年にあたり、空自がOBとともに実施する記念行事等に対する支援を重視する。また、事業を実施するに際しては、国際情勢等の変化に柔軟に対応する。

第2 実施事業等の概要

1 事業

(1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

実施事項：訓練参加隊員の激励・慰問

対象訓練：コープ・ノース、コープ・エンジェル、コープ・サンダー等

時 期：日米共同訓練実施時

(2) 米空軍隊員の激励等

実施事項：米空軍隊員の激励・慰問

訪 問 先：三沢、横田、嘉手納

時 期：必要に応じ実施

(3) 日米共同の行事等に対する支援

実施事項：嘉手納、三沢における日米隊員の友好スポーツ大会等への支援

時 期：大会等実施時

(4) 空自基地及び米軍基地等の研修

実施事項：空自那覇基地及び米軍嘉手納基地における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

参 加 者：賛助会員

時 期：未定

(5) 日米要人等の講演・講師派遣

ア 会員及び空自隊員を主対象とする講演

時 期：総会実施時(4月)及び空自創立50周年記念行事(6月)として

<p>講師：空幕防衛部長（総会実施時） 対象：正会員及び賛助会員、空自隊員</p> <p>イ 米空軍隊員を主対象とする講演会等への講師等派遣</p> <p>ア 講師派遣 講師等：会員の中の適任者（通訳は、必要に応じ米軍が準備） 実施要領：基地司令講話時等、米空軍側の要望（日時、場所、演題等）による。</p> <p>イ) J A A G A T a l k 参加者：日米各10名程度 実施要領：20～30分のキーノート・スピーチの後、討論会を実施する。 時期：上半期</p> <p>(6) S P O R T E X ' 0 4 ア SPORTEX'04-A 場所：多摩ヒルズ 参加者：会員及び米空軍隊員 約100名 時期：平成16年6月4日（金）</p> <p>イ SPORTEX'04-B 場所：多摩ヒルズ 参加者：正会員、空自隊員及び米空軍隊員 約100名 時期：平成16年11月23日（火、祝日）</p> <p>(7) 在空自基地米空軍将校等支援 実施事項：空自基地派遣米空軍隊員の活動等への支援 対象：① 新たに着任した在空自基地米空軍将校（3基地程度） ② 日米下士官相互部隊研修に参加する隊員</p> <p>(8) 米空軍隊員の史跡研修支援 実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援 対象：米空軍隊員（夫妻等9名基準）</p> <p>(9) 日米隊員の表彰 対象基地：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇 表彰人員：各基地日米隊員1名基準（7名） 時期：米空軍記念日等関連行事実施時</p> <p>(10) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇 対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内 時期：都度</p> <p>(11) 日米安保等に関する広報活動 ア 講演会等への講師派遣等 実施事項：① 部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋 ② 大学生等の米軍基地研修支援 実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。</p>	<p>イ 米空軍に対する広報支援 実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供） 実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。</p> <p>ウ 米空軍の企業研修の斡旋 実施事項：米空軍が研修を希望する民間企業との調整、斡旋 実施要領：米空軍の計画（研修企業、日時、その他）による。</p> <p>(12) 在日米空軍各基地との連携の強化 対象基地：三沢、横田、嘉手納 実施事項：各基地との緊密な調整、広報資料の提供等</p> <p>(13) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布 発行回数：3回（7月、11月、3月） ページ数：16ページ基準</p> <p>(14) 総会及び懇親会 日時：16年4月27日（火） 場所：ホテル・グランドヒル市ヶ谷</p> <p>(15) 空自創立50周年記念行事等に対する支援 実施事項：空幕長主催講演会およびそれに引き続くつばさ会会長主催懇親会を、担当実施する。 日時：16年6月28日（月） 場所：ホテル・グランドヒル市ヶ谷</p> <p>2 運営管理</p> <p>(16) 会勢の維持・拡大 実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内 実施要領：① 会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施 ② 空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付</p> <p>(17) 会員名簿の作成・配布 発行回数：本冊1回、修正表2回 時期：本冊（7月）、修正表（11月、3月）</p> <p>(18) 一般広報 実施事項：① 関係広報誌等への投稿、情報の提供等 ② インターネット・ホームページの運営</p> <p>(19) 理事会及び常任理事会 理事会：四半期毎に1回基準 常務理事会：理事会を開催しない月毎に1回基準（4月及び8月を除く。）</p> <p>(20) 監査 実施内容：前年度収支決算及び在空自基地米空軍将校貸与品の監査 時期：4月</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
---	--

平成16年度事業予定表

実施時期		1/四半期			2/四半期			3/四半期			4/四半期			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
事業	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等	----- (日米共同訓練実施時) -----												
	(2) 米空軍隊員の激励等	----- (必要に応じ実施) -----												
	(3) 日米共同の行事等に対する支援	----- (行事等実施時) -----												
	(4) 空自及び米軍基地等の研修	(賛助会員研修：期日未定)												
	(5) 日米要人等の講演・講師派遣	○4/27		○6/28	(上半期にJAAGA talk)									
	(6) SPORTEX'04			○A:6/4					○B:11/23					
	(7) 在空自米空軍将校等支援							○NCO支援					将校支援○	
	(8) 米空軍隊員の史跡研修支援		○											
	(9) 日米隊員の表彰												○	
	(10) 指揮官交代行事等への出席等	----- (その都度実施) -----												
	(11) 日米安保等に関する広報活動	←-----												
	(12) 在日米空軍各基地との連携の強化	←-----												
	(13) 会報「だより」の発行・配布					○23号			○24号				25号○	
	(14) 総会及び懇親会	○4/27												
	(15) 空自50周年行事等支援			○6/28										
運営管理	(16) 会勢の維持・拡大	←-----												
	(17) 会員名簿の作成・配布				○本冊			○修正表				修正表○		
	(18) 一般広報	←-----												
	(19) 理事会(★)・常務理事会(☆)		☆	★			★	☆	☆	★	☆	☆	★	
	(20) 監査	○前年度分												

第4号議案

平成16年度予算

収 入		支 出		
区 分	金 額	予 算 科 目	金 額	
前 年 度 繰 越 年 会 費 利 息	7,239,588 4,420,000 150	事 業 費	激 励 慰 問 費	100,000
		共同訓練激励費	200,000	
		研修助成費	155,000	
		表彰関係費	350,000	
		友好親善行事費	1,600,000	
		総 会 費	300,000	
		広 報 費	1,335,000	
		小 計 (77.54%)	4,040,000	
		運 営 管 理 費	名 簿 関 係 費	130,000
		会 則 関 係 費	40,000	
		入 会 活 動 費	70,000	
		支 部 運 営 費	90,000	
		会 議 費	20,000	
		事 務 費	70,000	
		通 信 費	30,000	
		旅 費	120,000	
		雑 費	100,000	
		予 備 費	500,000	
		小 計 (22.46%)	1,170,000	
計	5,210,000			
翌年度繰越(予想)	6,449,738			
合 計	11,659,738	合 計	11,659,738	

第5号議案

役員の選任

職名	氏名	
会長	村木鴻二	
副会長	江藤兵部、伊藤惇、後藤龍一（新任）	
監事	桑原武彦（新任）、中司崇（新任）	
理事長	吉川武秀	
副理事長	山口利勝（新任）	
理事	大串康夫（新任）、木村忠信（新任）	
常務理事	総務	森和彦、鈴木喜雄、高島秀雄
	企画	細稔、清水正睦、岩崎克彦、石黒正昭（新任）、北村善信（新任）、市野耕人（新任）
	会員	村岡亮道、尾崎利夫、宇都宮靖、新井洋一
	渉外	榎利美（新任）、阪東政詮、松井健、渡邊聖夫（新任）
	財務	平田伸成、橋本康夫、北村善信（新任、兼務）
	広報	岡本智博、越智通隆、四ツ家邦紀、吉田松徳、蜂谷治幸、村田博生、高橋健二（予定）

【退任】副会長：高橋伸治

監事：田中伸昌、横山俊夫

副理事長：後藤龍一（副会長へ）

理事：坂本祐信、荒蒔義彦

常務理事：山口利勝（副理事長へ）、桑原武彦（監事へ）、三澤守、中司崇（監事へ）、大串康夫（理事へ）、木村忠信（理事へ）

顧問	上田泰弘、白川元春、平野晃、竹田五郎、山田良市、森繁弘、大村平、米川忠吉、鈴木昭雄、長谷川孝一、石塚勲、石川吉夫、杉山蕃、横澤彰夫、平岡裕治、竹河内捷次、遠竹郁夫
----	---

講演等の要望を募ります

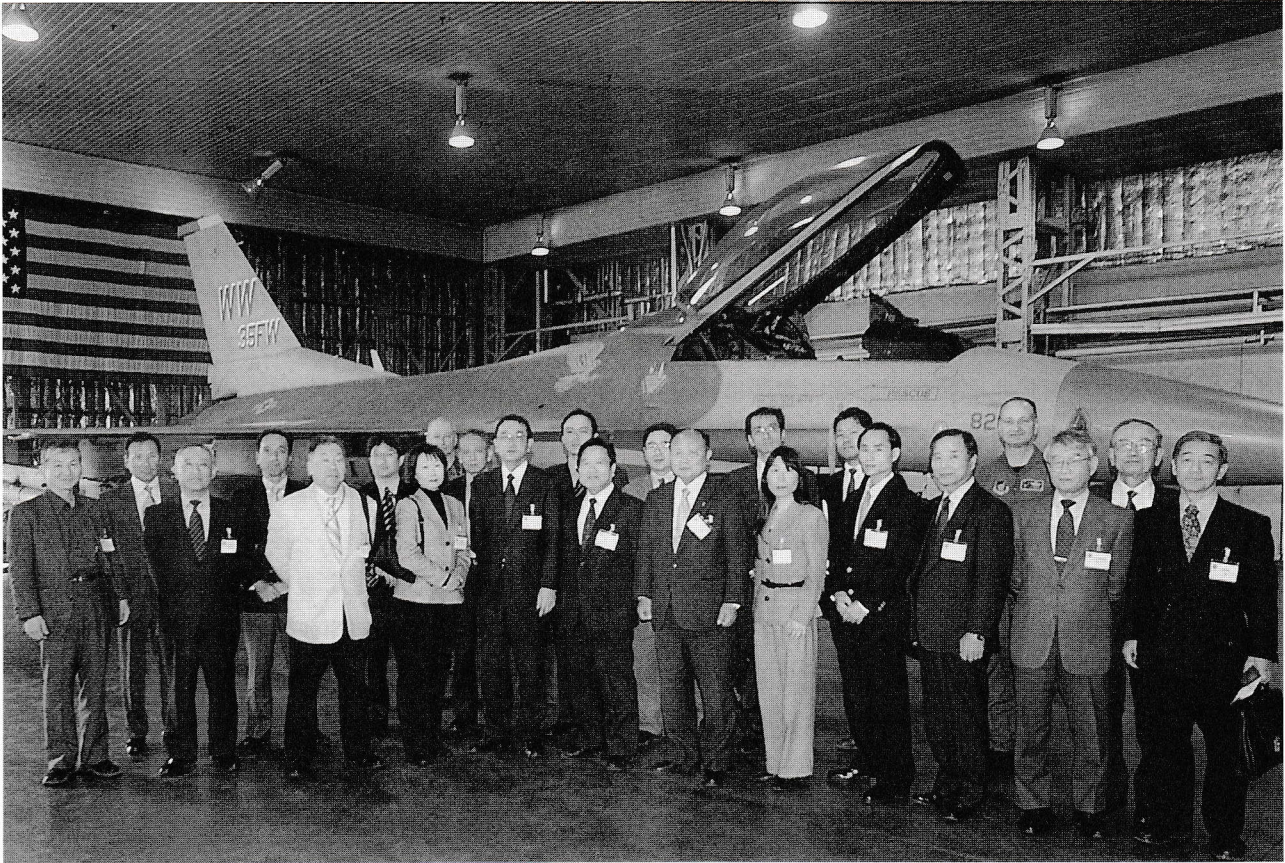
「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

J A A G A 三沢基地研修

— 日米の戦闘航空団の活動に感銘 —



Misawa Air Base tour

J A A G A の法人賛助会員及び個人賛助会員参加の三沢基地研修は平成16年3月29日・30日の両日、好天に恵まれて予定どおり実施された。

今回の参加者は横河電気(株)坂東日出彦氏を団長とする法人賛助会員12名、個人賛助会員2名、計14名で、J A A G A 役員会は常務理事 山口利勝氏以下5名が同行するとともに現地の三沢支部長 小澤満昭氏、事務局長 山本親男氏の参加を得た。

3月29日朝、定刻に入間ベースオペレーションに集合したあと、各人の紹介、全般説明、C-17輸送機搭乗関連のブリーフィング等を終えて搭乗したが、今回は私達だけの特別便と云うことで横4席×3列のエアライン並みの座席をセットしたパレットが2

枚、計24席が用意されており、固有のベンチシートとは比較にならない快適な飛行となった。尚このセットは復路も同じであった。

定刻09:30に入間を離陸し、折からの快晴で経路上の名勝を空から眺めつつ10:35三沢着、米空軍第35戦闘航空団司令アトキンス准将が転勤の発令で不在のため副司令のウェックホースト大佐以下主要幹部の出迎えとオーナーガードの中を出迎えのバスで第35戦闘航空団司令部に向かった。

司令部では、在三沢の米軍関係全般の概況説明を受けたが、飛行訓練、昨年11月に受閲したORIの成績、施設改善計画等興味深い中身の濃い内容であった。

昼食は米軍将校クラブでボリュームたっぷりのサンドイッチランチが振舞われ、その間に基地紹介のビデオを大画面に映写され、先刻の説明をより深く理解することが出来た。

13：10 第911格納庫に用意された「ワイルドウィーゼル」出撃時のフル兵装したF-16Cの前で記念撮影及び各個人の写真撮影の後4班に別れて機体、兵装、救命装具、フライトシミュレーター、の研修をしたが、ブロック50のF-16Cのアップデートされている実態に直接接することが出来て、その成果は大きかったと言える。

続いて第13飛行隊のブリーフィングルームに移動、最新のACMIを活用してのデブリーフィングが行なわれた。

15：40 航空自衛隊北部航空方面隊司令部に移動し、北部航空方面隊司令官 新野 修空将表敬（代表者）に続いて約40分の講和を拝聴したが、日米共同使用基地としての三沢の意義、先般実施されたアラスカでのコープサンダーの実態とその成果は此処でしか聴けない内容であった。

16：30 米軍の宿泊施設に移動し各人の部屋に落ち着き、18：00から再び米軍将校クラブに会場を移してJ A A G A主催の夕食会となった。

コマンダールームでのカクテルタイムに続くボー

ルルームでのステーキディナーはアトラクションも含めての和やかな懇談となり親善の環が広がった。

20：30 宿舎に帰り、有志による三沢市内でのハッピーアワーで再び盛り上がった。

3月30日 07：30VOQ発 此処からは空自のバスで米軍将校クラブでの朝食を終えて08：35航空自衛隊第3航空団へ移動し 第3航空団司令 鬼塚恒久空将補への表敬（代表者）の後 08：55から三沢基地の概況説明を受け、続いて第118格納庫に移動してF-2A及びF-4EJ改両戦闘機を研修した。

10：15 警戒航空隊整備格納庫でE-2Cを研修の後滑走路北側に位置する三沢へヘリコプター空輸隊に移動してCH-47Jヘリコプターを研修し全研修予定を終了した。

11：30～12：00 空自隊員食堂の一角に用意された会食場で第3航空団司令以下主要幹部が同席されての昼食会の後、厚生センターを見学して空輸ターミナルに移動し、予定より早く13：05三沢を離陸、14：15入間に着陸し無事研修を終了したが、研修参加者一同、日米の戦闘航空団の活動の実態に接して深い感銘を受けていた様子が伺えた。

（村田常務理事）

米軍三沢基地等研修の感想

横河電気 航空宇宙特機事業本部 坂 東 日出彦

私は、平成16年3月29日（月）～30日（火）に日米エアフォース友好協会主催の上記研修に参加させていただいた。

この研修会参加の動機は、現在の職務に従事して未だ日が浅く、早めに機会を捉えながら出来るだけ多くの経験をする必要を日頃感じておりました。

研修会の募集案内で入間から三沢まで往復C-1で移動するとあり、このような機会はありませんのでぜひ参加するべきだと周りの薦めもあり、即申し込みを致しました。

出発の2週間ほど前に、J A A G A常務理事の新井様から電話を頂き、今回の研修会の研修団長を引き受けるようにとの指示がございました。私のような新参者の任ではないと固辞しましたが、結果的に引き受けする羽目になりました。

研修の間、J A A G A常務理事の山口様を始め他の常務理事さんのご支援とご協力のお陰で、この大役を果たすことが出来たと深く感謝申し上げます。

さて研修ですが、入間基地からC-1特別便に乗りこんで最初に驚いたことは、社内で事前に聞いて

いた情報と大きく異なり、旅客機のように白いカバーが掛かった座席が前向きに約40席、整然とセットされていたことです。勿論帰りも同じ座席で、騒音は多少大きいですが輸送機ではなく、JALに乗っているような気分でした。JAAGAの皆様のご尽力と我々に対する航空自衛隊様のご期待の大きさだろうと感謝申し上げると同時に身が引き締まる思いで一杯でした。

約1時間後予定通り三沢基地に到着し米軍第35戦闘航空団の幹部の方々に迎えて頂き、その上赤い毛氈の両側に3人ずつの兵隊さんがサーベルを上にかざしている間を通り抜ける時はさすがに緊張しました。

第35戦闘航空団司令部では副司令のウェックホースト大佐を初め、殆んどの群司令のご出席の中で基地の概況説明、昼食をはさんでの基地紹介ビデオの上映がされました。こんな詳しい説明をしても大丈夫かと思えるような内容でびっくりしました。

また午後は格納庫でF-16戦闘機、F-16シュミレータ及び搭載武器・弾薬・装備品の展示等があり、

実際に説明を受けながら体験が出来て大変感激でした。

その上、飛行隊建物内のブリーフィングルームまで見せて頂きました。

その後、将校クラブで米軍幹部・北空司令官の新野空将とその幹部の方々を交えて本当にアットホームな夕食会が催され、瞬く間の2時間でした。

2日目は第3航空団司令の鬼塚空将補表敬の後、第118格納庫でF-2、F-4戦闘機や警戒航空整備格納庫でE-2C、三沢ヘリコプター空輸隊でCH-47Jの見学させて頂いた。どのプログラムも行き届いた準備と対応をして頂き、本当に有意義な研修でありました。

この二日間の米軍三沢基地研修は私にとって日本の安全保障を考える上で本当に勉強になりました。最後になりましたが、ご協力頂きました航空自衛隊の皆様、アメリカ軍の皆様、そしてこの計画を主催して下さい、日米エアフォース友好協会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

三 沢 基 地 研 修

東京航空計器(株) 高橋圭子

三沢基地研修ということで、2日間に渡り「米軍三沢基地(第35戦闘航空団)と「航空自衛隊三沢基地(第3航空団)」を訪問しました。

この研修で、日米安全保障体制の重要性を再認識すると共に、米軍側が同盟国として、日米の友好関係を保つ努力をしていることが非常に良く窺えました。その象徴として、三沢基地に到着したとき米軍による盛大な出迎えを受け、また、米軍テレビ局(AFN)までもが待ち受けていました。研修中米軍による暖かいお持て成しを受け、そのおかげでとても充実した時間を過ごすことが出来ました。

近年、米空軍と航空自衛隊との共同訓練が積極的に行われ、アラスカでの共同訓練では空中給油機を使用して自衛隊のF-15戦闘機が参加し、大きい成

果を得ているとお話を米軍、自衛隊それぞれから聞きました。また、自衛隊では、米軍関係者に協力してもらい、コミュニケーション能力や飛行技術等のスキルアップについても積極的に取り組んでいるようです。このような取り組みの積み重ねが共同任務において非常に重要であると考えます。米軍飛行隊では「予習→実地→復習」を徹底して行っているように思えました。現在、イラク復興支援や北朝鮮核問題等、日米同盟国協力により早期解決が求められている問題がたくさんあります。従って今後更に、自衛隊と米軍の共同による多くの取り組みが必要不可欠と考えます。

本研修で、日米それぞれの飛行隊を訪問し、同じ敷地内に位置しながらもそれぞれの国の文化の違い

を感じました。米軍の施設はどこもゆったりとしたスペースを持ち、部屋の装飾もとても豪華な雰囲気でした。また、米軍側は、基地設備を充実させ外国で暮らす家族の生活のサポートについても重要視しているようです。三沢基地では、米軍の陸・海・空・海兵隊の4軍が駐留しています。そして、現在1本しかない滑走路は、米軍、自衛隊、そして民間エアラインが共同で使用しています。そこで米軍側では第二滑走路の早期建設が必要であると考えており、現在BCP（Base Comprehensive Plan）として日米共同で基地の整備の検討を行っています。この計画では、米軍居住地区も含め大掛かりな基地内改修を行いたい様子でした。基地整備計画において、米

軍と自衛隊との共有施設が大きく拡大され、生活においても文化の交流と友好関係が深まっていくことを願います。

最後に、今回の研修では自衛隊機（C-1）にも搭乗することができ、航空自衛隊入間基地と三沢基地との間片道約1時間ちょっとの往復でしたが、自衛隊機の運用面についても理解を深めることができました。この体験を今後の仕事にぜひ生かしたいと思います。

このような貴重な体験をする機会を与えていただき、また研修中いろいろお世話して下さいましたJAAGA理事の皆様方に感謝すると共に、お礼を申し上げます。

三沢基地研修を終えて

フィルインフォメーション(株) 太田 茂

今回 春早い東北の地 三沢に3月29日、30日の両日、米空軍第35戦闘航空団 及び航空自衛隊第3航空団を研修する機会を得て、深い感謝の気持ちで貴重な体験をすることが出来、平和が如何に大切かつ必要なものであるかを考えることも出来ました。

特に、米空軍におかれましてはイラク派遣に伴うテロの対処等々の中で、研修当日には警戒態勢が更に一段上がるという緊迫した状況の中でのブリーフィングに始まり、F-16Cにワイルドウィーゼルの作戦行動時のフル兵装をした形態での展示、各種ウェポン、救命装備品、フライトシュミレーター等平和と自由を守る為のシンボルをつぶさに見せて戴くという充実した一日でありました。

今回のような日米の第一線の航空団を研修して思いますが、私達も現実のサポートを一日も早くしっかりと出来ないものかと“歯がゆく”感じる事です。

世界に広がるテロの脅威は、我が航空自衛隊もイラクに派遣されている今日、反体制勢力にとっては

標的とする国でもあり、日本国内での治安活動の見直し等何れも我が国が初めて経験する事案ばかりの中で危機管理能力も世界の相応の国々のレベルにはほど遠く、安心して暮らせる国造りを目指すことが目下の急務であることを再認識し、世界に胸を張れる国にし、更には日本国民一人一人がその事を早く気づくよう真剣に考えて欲しいという気持ちがひしひしと伝わってきました。

我が国の周辺を見渡しても、「北朝鮮問題」「尖閣諸島問題」等独裁国家や核保有国家等が至近に存在しております。

この種の厄介な難問題解決の神髄は日米同盟を更に強固なものにしていく事が国益に繋がるものだと考えます。

本研修を通じまして改めて米空軍及び航空自衛隊の万全のご配慮に誠意を表します。

米空軍第35戦闘航空団副司令 鬼塚空将補以下の関係スタッフの方々、山口常務理事以下のJAAGAの役員会の方々、本当に有り難うございました。

… 新入会員の紹介 …

(1) 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
市 野 耕 人	151-0071	渋谷区本町 1-15-10	03-3377-1986
森ビルエステートサービス(株)	157-0066	世田谷区成城 8-23-21	03-3789-3221
藤 井 均	224-0028	横浜市都筑区大圃西 3-8-1001	045-593-4708
関東航空計器(株)	251-0875	藤沢市本藤沢 2-3-18	0466-81-3311
高 橋 健 二	359-1142	所沢市上新井 310-58	04-2922-0846
(株)日本製鋼所	100-8456	千代田区有楽町 1-1-2	03-3501-6136
渡 辺 修 三	158-0082	世田谷区等々力 3-23-15	03-5758-3090
(株)ハウスメイトパートナーズ	170-6041	豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン60、41F	03-3590-0902
中 本 雅 司	470-2385	知多郡武豊町北中根 5-48-1	0569-73-7766
(有)ユタカアンドアソシエイツ	475-0927	半田市北二ッ坂町 1-12-8	0569-26-5700
条 幹 雄	590-0136	堺市美木多上 123-1	072-296-5133
住友電工(株)	554-0024	大阪市此花区島屋 1-1-3	06-6466-5592

(2) 個人賛助会員

氏 名	〒	住 所 ・ 電 話 番 号	
外 木 守 雄	261-0012	千葉市美浜区磯辺 4-15-25	043-303-0870
帆 足 孝 治	352-0012	新座市畑中 1-9-43	048-479-1988
山 下 敬 子	204-0023	清瀬市竹丘 3-10-16	0424-94-0386
長 田 義 範	191-0034	日野市落川 67-9	042-593-7349
小 川 雅 之	302-0104	守屋市久保ヶ丘 3-1-12	0297-48-7713

会 員 募 集

J A A G A は、創立 8 周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊の O B

個人賛助会員 : 航空自衛隊の O B 以外の方で、正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋 5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「電話」 03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株))

03-3212-3111 村岡亮道(三菱重工(株))

03-5400-4721 宇都宮靖(横浜ゴム(株))

03-3286-0339 新井洋一(新東亜交易(株))

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

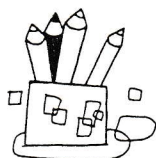
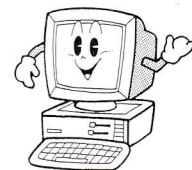
A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



投稿受付

越智 通隆 Tel 03-3437-8972 (三井物産エアロスペース)
Fax 03-3437-8755